

美術研究科芸術学専攻 美術教育

養成人材およびカリキュラム編成の方針

実技制作研究と理論研究を通して、制作者の視点から美術教育の重要性を社会に発信していくことのできる人材を育成することを目指している。

表現者として実技制作の専門的な能力を高め、美術領域の様々な分野に視野を広げながら制作に関わる高度な学修ができ、また表現の根源にある思想や人間形成における美術の本質的意義などについて探究したり、制作の中で得られる発見や経験などを理論的に深めたりすることができるよう[必修科目][選択必修科目]からカリキュラムを編成している。

求める入学者像

- ・学士課程等において実技制作の各専門領域の基礎的な知識・技能を修得し、美術領域の様々な分野に視野を広げながら実技制作の専門的な能力を高めるとともに、美術の教育的意義や美的人間形成などについて理論的に探究する研究を行いたいと考えている者
- ・実技制作で得られる発見や経験などを言語化し、理論的に深め、美術教育に生かそうとする意欲がある者
- ・美術の専門性を生かして、教育や人間形成に寄与したり、社会に貢献したりすることに意欲的な者

修了認定・学位授与の方針

必要単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、実技制作研究・理論研究の成果として提出した修士作品および修士論文の審査に合格すること。

カリキュラム構成

[必修科目]として、修士1年次は「美術教育論Ⅰ・Ⅱ」、「構成論及び演習Ⅰ・Ⅱ」、「素材論及び演習Ⅰ・Ⅱ」および「実技Ⅰ・Ⅱ」と「課題研究Ⅰ」を、修士2年次には「実技Ⅲ・Ⅳ」と「課題研究Ⅱ」を履修する。

また[選択必修科目]の「美術教育ゼミⅠ（論文演習）」、「美術教育ゼミⅡ（立体表現・理論）」、「美術教育ゼミⅢ（平面表現・理論）」から各学年1つ以上を履修する（選択必修科目A）のに加えて、修士課程2年間の間に学部等において開設されている授業科目から関連講義・演習を履修する（選択必修科目B）。

これらの科目履修に加え、修士1年次から実技制作研究・理論研究に取り組み、修士2年次にはそれぞれの研究成果となる修士作品の制作・修士論文の執筆に取り組む。

【次ページへ】

教育目標			
①美術領域の様々な分野に視野を広げるとともに、実技制作の専門的な能力を高める ②表現の根源にある思想や人間形成における美術の本質的意義などについて探究し、自らの美術教育観を深める ③実技制作の中で得られる発見や経験などを言語化し、理論的に深める ④研究経過や研究成果をまとめ、他者に向けてわかりやすく説明・発表するとともに、他者との意見交換を通して自らの研究を深める			
年次	科目		教育目標
1年次	必修科目	美術教育論Ⅰ・Ⅱ	② ③
		構成論及び演習Ⅰ・Ⅱ	① ③
		素材論及び演習Ⅰ・Ⅱ	① ③
		実技Ⅰ・Ⅱ	① ③ ④
		課題研究Ⅰ	① ② ③ ④
	選択必修科目A	美術教育ゼミⅠ-Ⅰ、Ⅰ-Ⅱ（論文演習）	② ③
		美術教育ゼミⅡ-Ⅰ、Ⅱ-Ⅱ（立体表現・理論）	① ③
		美術教育ゼミⅢ-Ⅰ、Ⅲ-Ⅱ（平面表現・理論）	① ③
2年次	必修科目	実技Ⅲ・Ⅳ	① ③ ④
		課題研究Ⅱ	① ② ③ ④
	選択必修科目A	美術教育ゼミⅠ-Ⅲ、Ⅰ-Ⅳ（論文演習）	② ③
		美術教育ゼミⅡ-Ⅲ、Ⅱ-Ⅳ（立体表現・理論）	① ③
		美術教育ゼミⅢ-Ⅲ、Ⅲ-Ⅳ（平面表現・理論）	① ③
	1～2年次	選択必修科目B	関連講義・演習（2）